

大三島町宗方における地域交流拠点づくりについて

-まちづくり研究所の活動・2018年度-

吉岡 寛之** 曾我部 昌史* 石田 敏明* 内田 青蔵* 山家 京子* 中井 邦夫*
 須崎 文代** 田野 耕平*** 重村 力**** 丸山 美紀***** 長谷川 明***** 鈴木 成也*****

Making of Regional Exchange Base in Omishima-Munakata Report on Activities of the Town Planning Institute 2018

Hiroyuki YOSHIOKA** Masashi SOGABE* Toshiaki ISHIDA* Seizo UCHIDA* Kyoko YAMAGA* Kunio NAKAI*
 Fumiyo SUZAKI** Kouhei TANO*** Tsutomu SHIGEMURA**** Miki Maruyama***** Akira Hasegawa***** Naruya SUZUKI*****

1. 大三島町宗方の地域交流拠点づくり

大三島は広島県と愛媛県をつなぐしまなみ海道の中央に位置する島で、柑橘栽培を中心とした農業が主な産業である。島内では人口減少と少子高齢化が進み、柑橘栽培の担い手が育たず、耕作放棄地が増加している。しかし、近年ではIターンによる移住者も増え、有機栽培による新たな農業の取り組みが深まりつつある。しまなみ海道は、自動車のみではなく自転車で行き来が出来る道としてサイクリストの聖地と呼ばれ、年々観光客が増えつつある。2011年の今治市伊東豊雄建築ミュージアム開館がきっかけとなり、同氏が開設した伊東建築塾と協同で、2013年から大三島の地域づくりの活動を進めている。本稿では宗方地区の地域交流拠点づくりに関する取り組みを報告する。

2. 大三島ふるさと憩の家の沿革

宗方は島の南西に位置する集落である。しまなみ海道の大三島インターチェンジから約15km先にあり、商店数の少ない不便な地域ではあるが、斜面地には手入れがされた柑橘畑が広がり大三島特有の美しい風景が残る。1986年に宗方小学校は過疎化による児童数の減少により閉校となった(図1)。その後は、大三島ふるさと憩の家と呼ばれる宿泊所として親しまれてきた。敷地南側の海辺では、2014年

から地域住民が宗方権伝馬十七夜祭という祭りを復活させた(図2)。200年以上の歴史があるとされる祭りで、手漕ぎ舟でスピードや勇壮さを競い合う。祭りの時期には集落を離れてしまった人も訪れて、賑わいが生まれていた。一方、旧宗方小学校の建物については、老朽化により取り壊しの検討がはじまっていた。島内に唯一残る木造校舎であり、地域の記憶が残る場所として存続できないかと考え、伊東豊雄建築ミュージアムでの展覧会「日本一美しい島・大三島をつくろうプロジェクト2015」にて改修案を展示した(図3, 4)。地域住民と観光で訪れたサイクリストが集える場所として、ラウンジやワークショップスタジオなどを備えた交流の場である。これが契機となり、2018年に今治市からの地方創生交付金が得られることになり、新たな地域交流拠点としての改修が実現することになった。

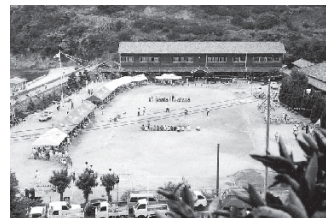


図1 . 1980年の宗方小学校



図2 . 2014年の宗方権伝馬十七夜祭

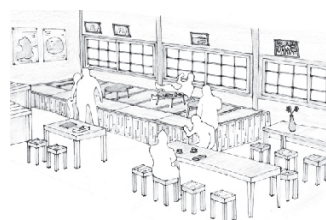


図3 . 改修案/ラウンジ

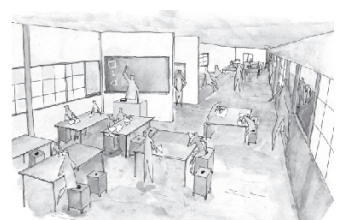


図4 . 改修案/ワークショップスタジオ

* 教授 建築学科
 Professor, Dept. of Architecture
 ** 特別助教 建築学科
 Assistant Professor, Dept. of Architecture
 *** 特別助手 建築学科
 Research Associate, Dept. of Architecture
 **** 客員教授 工学研究所
 Guest Professor, Research Institute for Engineering
 ***** 特別研究員 工学研究所
 Research Fellow, Research Institute for Engineering

3. 改修の経緯について

敷地面積8147.71m²の中に北棟(木造平屋 延床面積613.43m²), 西棟(木造2階建 延床面積794.96m²)の2つの建屋があり, 宿泊所として利用されている。かねてから屋根からの漏水が深刻な問題であった。北棟では東側の一部, 西棟では様々な箇所でも漏水が発生しており, 原因箇所が特定できない状態であった。西棟の背後には斜面地が迫る。地面の水はけが悪いため床下にカビが発生しやすく, 今治市が床下に換気扇を設置し対策を行っていたが, 大半の客室でカビ臭が感じられるなど宿泊に影響がでていた。



図5. 改修前の西棟屋根裏



図6. 改修前の西棟床下

2017年3月から本格的な改修設計をはじめた。5月に実地調査を行い, 老朽化した部分の実態を把握しながら各棟を実測し, 図面化を進めた(図5, 6, 12)。宗方小学校は別の土地で創立された後に現在の場所に移転し, 西棟はその際に解体移築されたことが地域住民へのヒアリングからわかってきた。実測からも再建築の経緯がわかる柱梁材が確認できた。設計内容については, 地元の運営者である藤原大成氏と密なやりとりを行った。これまでの不具合箇所を整理し, これから地域の中でどのような拠点であるべきか, 観光客にとってどのような設えが求められるか等, 様々な視点で議論を重ねた。客室については, カビの影響が出ている西棟の和室を洋室化し, 洗面, シャワーなどの水廻りを充実し快適性を向上した(図8, 9)。食堂は, 今まで以上に様々な使い方に対応すべく, 以前は使われていなかった2階部分を改修し上下をつなぐ階段を設け, 食堂をより大きく拡張した(図10)。敷地南側には温室の建物があった。一層分ほどあるコンクリート土台を活用し, その上に新たな木造の架構を加えて, 瀬戸内の海を間近に体験できる風呂棟として改修を行った(図11)。サイクリストの休憩所としても活用されるように, 北棟トイレについても一部改修を行った。



図7. 改修後の全景(正面が西棟, 右手が北棟, 左手が風呂棟)



図8. 改修後の西棟, 北棟



図9. 改修後の客室



図10. 改修後の食堂



図11. 改修後の浴室

10月に着工し, 運営者である藤原氏の協力により半年間休業をし施工が進められた。施工期間中は, 地元施工会社, 大三島島内の大工さん, 愛媛県立今治北高等学校大三島分校の高校生(図13), 関東や関西からの大学生, 宗方の住民, 藤原氏の家族など, 合計200人を越えるメンバーが施工に携わった。従来の建築のつくり方とは違う, 多様な人の小さな力が集まることで生まれた建築である。2018年4月にリニューアルオープンを迎えた。



図12. 伊東建築塾と協同で実測調査



図13. 大三島分校生の協力

4. 今後の取り組みについて

改修後の大三島ふるさと憩の家では, 子どもたちの夏合宿, 地元高校性と留学生の交流授業の教室, 宗方小学校の卒業生による交流会, ウェディングパーティーなど, これまでの宿泊所の枠を越えた様々な活用が行われている。

観光で訪れた人と地元住民との接点となる場所として活用されることを目指し, 運営者と定期的にミーティングを設け, 宿泊ツアーやイベントなど活用プランを議論し, 今後の拠点の在り方を検討している。

継続して活動をつづけている徳島美波町の門前町再生, 横浜市関内エリアの防火帯建築の活用など, 他の地域での取り組みについては来年度以降, 報告を予定している。